

オミクロンの変異株が蔓延しているにもかかわらず、行動制限もなく、一見平穏な暮らしが続いています。しかし、医療の現場では、2 類感染症なのにどんどん増えている新型コロナウイルス感染症に翻弄されています。2 類感染症は発生は比較的稀であるが、重症化する可能性のある感染症に対してとられる対策です。現在の新型コロナウイルス感染症は、季節性インフルエンザとほぼ同等な毒力であり、高齢者で重症化する可能性はありますが、それ以外の年代では普通感冒と言っているほどになっています。実際、国は特別な対策をとっていません。この矛盾した状況を早く解決しなければ医療機関や保健機関はどんどん疲弊していくことでしょう。当院も、検査処理能力に限界があり、検査を制限させて頂くことにしました。ほとんどの方は新型コロナウイルス感染症に罹患しても数日で回復します。病気よりも怖いのは、10 日間の隔離ではないでしょうか。幼い子がかかれば、親は 15 日間の自宅待機になります。これは人災と言っているいかも。

【最近目立つ病気】

胃腸炎はあいかわらず流行しています。昔よりも胃腸の弱い人が増えるように感じます。昨年は RS ウィルス感染症が流行しましたが、今年も散見されます。また RS ウィルス感染症と症状が似ているヒトメタニューモウイルス感染症も見られています。手足口病も、溶連菌感染症もみられます。乳児の突発性発疹症も目立ちます。様々な感染症がみられるため、発熱したらコロナ感染というわけではないので、診断に時間がかかることもあります。

こうしてみると、ウィルスの世界も新参者の新型コロナウイルスを受け入れてきたのかなと思います。ウィルス干渉という言葉を知ったことがありますか？強いウィルスが流行すると、他のウィルスは鳴りを潜めます。新型コロナウイルスが流行しているのに様々なウィルスが流行しているのは、コロナの毒力が弱まった証拠かもしれません。あるいは、単に行動制限をしなくなったのが主な理由なのではないでしょうか。このまま行くと、今年の冬はコロナとインフルエンザの同時流行が起こっても不思議ではありません。

【オミクロン株対応ワクチン】

厚生労働省は新型コロナウイルスのオミクロン株に対応したワクチンの接種を、2 回目までのワクチン接種を終えたすべての人を対象に、10 月中旬以降に開始する方針を決めました。高齢者の重症化を防ぐとともに若い世代も含め社会全体の免疫をあげることが目的です。新しいワクチンは、従来株に由来する成分とオミクロン株の一つ、「BA.1」の 2 種類を組み合わせた「2 価ワクチン」と呼ばれるものです。現在、国内で流行している「BA.5」に対しても、ウィルスの働きを抑える中和抗体の値が上昇すると見込まれています。使用を想定しているのはファイザーとモデルナが開発中のワクチンで、薬事承認されれば来月にも輸入し、自治体への配送を開始する見通しです。60 歳以上の人などを対象に進められている 4 回目接種について対象を拡大するかについては、現段階では拡大せずに検討を続けることになりました。

WHO（世界保健機関）によると、従来のワクチンでもオミクロン株を含むすべての新型コロナウイルスに対して高い重症化予防効果があるとしています。しかし、従来のワクチンは従来株に比べオミクロン株への感染や発症予防の効果が低いほか、打ってから時間がたつほど効果が弱まることなどから、ファイザー社やモデルナ社などがオミクロン株対応のワクチンの開発を進めていました。ファイザー社やモデルナ社は、オミクロン株対応ワクチンとして従来株のワクチンとオミクロン株を含む 2 価ワクチンを開発中で、今回日本が導入を決めたのは「BA.1 対応型」と言われているものです。ことし 6 月にアメリカの FDA（食品医薬品局）にファイザー社が示した臨床試験の結果によると、56 歳以上を対象に「BA.1 対応型」を 4 回目で接種したところ、従来型ワクチンを 4 回目に接種した人と比べオミクロン株の派生型「BA.1」に対しウィルスの働きを抑える中和抗体の値が平均で 1.56 倍から 1.97 倍上昇し、現在流行している「BA.5」に対しては「BA.1」には劣るものの中和抗体の値の上昇がみられたと報告しています。またモデルナ社も「BA.1 対応型」の 2 価ワクチンでも中和抗体の値を従来のワクチンと比較すると「BA.1」に対して平均で 1.75 倍上昇を示したと報告しています。海外では、FDA（食品医薬品局）が製造販売業者に対して、現在流行しているオミクロン株の派生型「BA.5」の成分を混ぜた「BA.4/5 対応型」の 2 価ワクチンの開発を勧告していますが、EMA（欧州医薬品庁）では、2 価ワクチンに入れるオミクロン株の派生型によって効果に大きな差があるとせず、現時点で絞り込みを行っていません。厚生労働省では「BA.4/5 対応型」の 2 価ワクチンでは輸入が 9 月よりも遅れるとみていて、いち早く利用が可能な「BA.1 対応型」のワクチンを選択しました。オミクロン株に対応したワクチンの接種では、前回の接種とどの程度の間隔をあけるのかは現時点では明らかになっていません。

オミクロン株に対応したワクチンの接種間隔を海外の治験データなどから「5 か月」と仮定して、60 歳以上の人は 4

回目の接種のピークが始まった先月以降に接種をした場合、ことし 12 月以降に多くの人がオミクロン株対応ワクチンを接種する時期を迎えるとしています。また、8 日開かれた厚生労働省の専門家で作る分科会では、新型コロナウイルスワクチンの 5 歳から 11 歳の子どもの接種についても議論が行われ、接種を受けるよう保護者が努めなければならない「努力義務」とする方針が決まりました。「努力義務」は、接種を受けるよう努めなければならないとする予防接種法の規定です。接種を受けるかどうかはあくまで本人が選択できることになっており、法的な強制力や罰則はありません。5 歳から 11 歳の子どものワクチン接種をめぐることは、厚生労働省はことし 2 月、接種の呼びかけは行うもののオミクロン株に対する有効性が明確でなかったことなどから、当面は「努力義務」としないことを決めていました。8 日の分科会ではオミクロン株への効果や安全性に関するデータが集まってきたとして「努力義務」とすることが了承されました。

おしらせ



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（TEL:222-0099）では午後 7 時 30 分から 11 時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は 10/28 の予定です。なお 8/28 は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院の Hp (<https://kabata-cl.jp>) から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので是非ご利用ください。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。

